

日本コーチング学会第23回大会

(兼 日本体育学会体育方法専門分科会研究会)

【大会テーマ：高等教育機関におけるコーチ養成の将来】

第一日目：2012年3月17日（土）

10:00～ 受付開始（教育棟1階）

10:20～10:30 開会挨拶（記念講堂）

10:30～11:30 特別講演（記念講堂）

テーマ「Athlete Centred Coaching」Lynn Kidman氏（オークランド工科大学）

11:45～12:45 理事会（2203教室）

13:00～14:00 コンパクトプレゼンテーション(1)（記念講堂）

14:00～15:00 ポスター発表(1)（3201教室）

15:15～16:45 日本体育学会体育方法専門分科会企画シンポジウム（記念講堂）

テーマ「高等教育機関におけるコーチ養成の将来」

司会：三輪康廣（日本体育大学）

演者：「日体大大学院実践学コース・コーチング学系の試み」伊藤雅充（日本体育大学）

「公認スポーツ指導者制度」廣崎正彰（日本体育協会スポーツ指導者育成部）

「初等中等教育における現職教員の指導力向上の取り組み」佐藤豊（鹿屋体育大学）

17:00～18:00 総会（記念講堂）

18:15～20:00 懇親会（学生食堂）

第二日目：2012年3月18日（日）

9:30～10:30 特別講演（記念講堂）

日本コーチング学会国際交流推進委員会企画

テーマ「In pursuit of Coaching Excellence: A perspectives and Experience of Taiwan」

Chen Chuan-Show氏（台湾コーチング協会名誉会長）

10:40～11:40 特別講演（記念講堂）

テーマ「Global Developments in Coaching」

John Bales氏（国際コーチ教育協議会会長）

11:50～12:50 ランチョン・ワークショップ（2201教室）

テーマ「コーチング現場での映像の活用」ダートフィッシュ・ジャパン

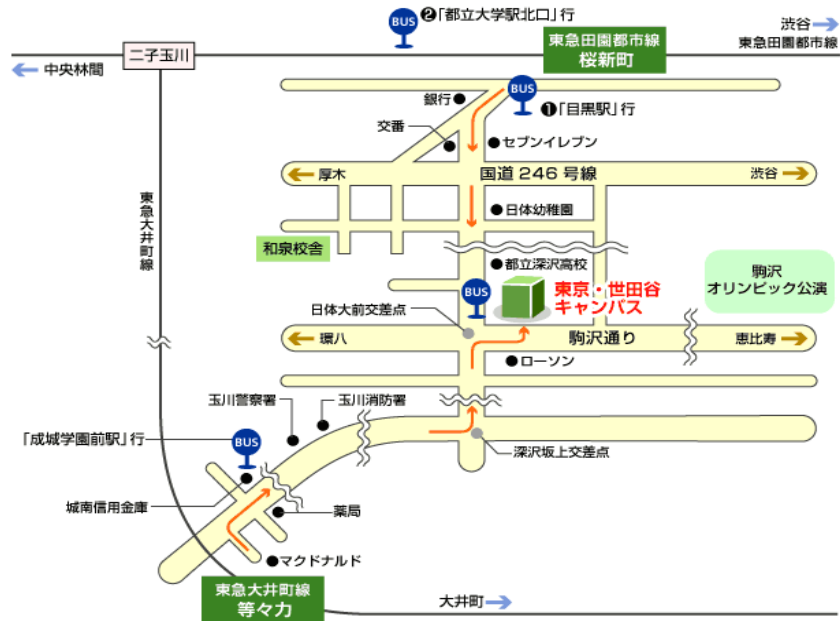
13:00～14:00 コンパクトプレゼンテーション(2)（記念講堂）

14:00～15:00 ポスター発表(2)（3201教室）

15:10～15:20 表彰・閉会式（記念講堂）

【大会会場】

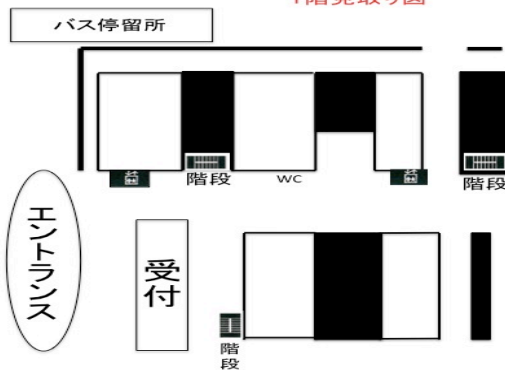
場所：日本体育大学世田谷キャンパス



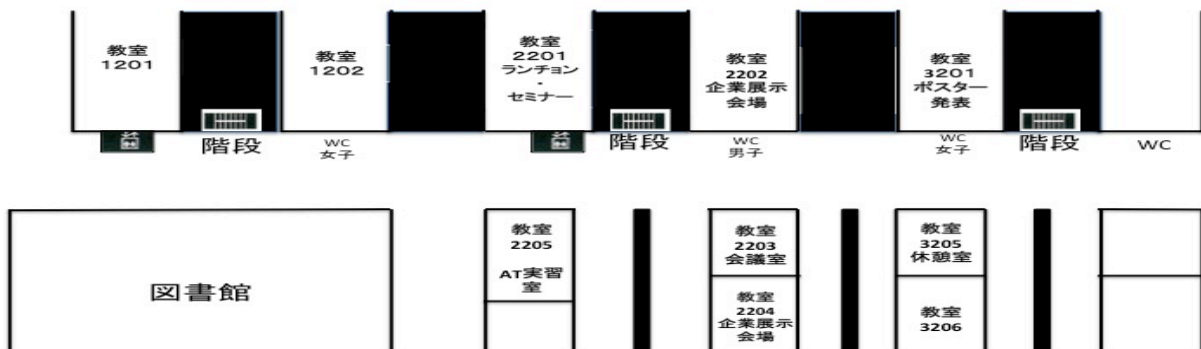
シンポジウム会場 G階



1階見取り図



2階見取り図



お願いとお知らせ

【参加者】

- 1.大会受付：受付は教育棟1階入り口に設置します。役員の受付は9時30分より開始します。会員および当日参加者の受付は10時より開始します。
- 2.会員章： 受付で学会大会会員章をお渡ししますので、学会中は必ず着用願います。
- 3.参加費： 例年通り学会員無料。非学会員1000円（当日受付でお支払ください）。
- 4.大会号： 大会号（CD-ROM）は学会当日参加された方に配布いたします。
- 5.食事と休憩：3月18日（大会2日目）は、学内の食堂、コンビニエンスストアが使用できません。ランチョンセミナーに参加されない方は学外の飲食店をご利用下さい。また休憩は、教育棟2階3205教室をご利用下さい。
- 6.駐車場： 学内駐車場はありません。公共の交通機関をご利用ください。
- 7.懇親会（情報交換会）：会費は3000円（院生・学生1000円）です。是非ご参加ください。

【一般発表（ポスター発表の演者の方へ）】

- ・ポスター掲示用のパネルは横90cm×縦210cmのものを用意します。
- ・ポスター掲示用の画鋏等は実行委員会では用意いたしませんので、各自でご用意下さい。
- ・ポスターの掲示は大会1日目、2日目ともに、指定された場所に12:00完了させてください。
- ・ポスター発表時間中は、演者は必ずポスターの前で質疑応答を行ってください。ポスター発表には座長はつかず、口頭での発表も行いません。
- ・ポスター発表終了後は速やかに撤去をお願い致します。17:00の時点で撤去が完了していない場合は実行委員会で処分させていただきます。

【コンパクト・プレゼンテーションをご希望された方へ】

- ・コンパクト・プレゼンテーションを実施する場合にもポスターの掲示は必須となります。
- ・コンパクト・プレゼンテーションはポスター発表と同じ日に実施します。
- ・発表時間は演者交代時間を含め5分とします。質疑応答はありません。
- ・時間的な制約のため、実行委員会で準備するPC（Windows7,Microsoft Power Point 2010）のみをご使用頂きます。なお、プロジェクターを使用する際には、データのコピーを発表当日の12:00までにポスター発表会場内に設置するコンパクト・プレゼンテーション受付にて行ってください。
- ・コンパクト・プレゼンテーション終了後、コピーしたデータは消去させていただきます。

一般発表プログラム

3月17、18日 ポスター・プレゼンテーション プログラム

| 発表日 | NO | P-NO | CP | 演題名 | 発表者 | 所属 |
|-------|----|------|-------------|--|-------|---------------------------|
| 3月17日 | 1 | A-1 | | 女子棒高跳選手の競技ヒストリーとトレーニング過程に関するコーチング学的研究 ～4m23まで記録を高めたある女子選手の事例を手がかりにして～ | 仲田愛 | 筑波大学大学院 |
| | 2 | A-2 | | 陸上競技女子中長距離選手の競技力向上に関する要因についてのコーチング学的研究 ～9年間の競技史をもとにした質問紙調査を手がかりにして～ | 広田愛子 | 筑波大学 |
| | 3 | A-3 | 12:00-12:05 | スプリントトレーニングにおける単独走と競走の比較 一疲労時に焦点をあてて一 | 豊嶋陵司 | 大阪教育大学大学院 |
| | 4 | A-4 | | 曲線走における走パラメーターを用いたパフォーマンス向上のための基本的研究 | 和田一宏 | 京都工芸繊維大学大学院 |
| | 5 | A-5 | | 直線走と曲線走の時間および動作分析 | 荒川優 | 筑波大学 |
| | 6 | A-6 | | 様々なスポーツ選手における短距離疾走の特徴 | 西村三郎 | 筑波大学 |
| | 7 | A-7 | | 疾走の特徴に対する各種ジャンプテストによる評価の有効性 | 永原 隆 | 筑波大学大学院 日本学術振興会特別研究員DC |
| | 8 | A-8 | 12:05-12:10 | 跳躍パフォーマンス・バウンディング・リバウンドジャンプの階層構造関係に関するトレーニング学的研究 | 菊山靖 | 筑波大学大学院 |
| | 9 | A-9 | | プライオメトリックトレーニングが大学バスケットボール選手のジャンプ能力に及ぼす影響 | 渡邊陵由 | 八戸大学 |
| | 10 | A-11 | | バスケットボールのゲームにおけるボール獲得状況・攻撃形態と得点率の関係 | 八坂昭仁 | 九州共立大学 |
| | 11 | A-12 | | バスケットボール競技における攻撃の成否とボール移動エリア | 奥田知靖 | 北海道教育大学岩見沢校 |
| | 12 | A-13 | | バスケットボールゲームにおけるボールの移動軌跡に関する3次元分析 | 大場 渉 | 沖縄大学 |
| | 13 | A-14 | | 高校トップレベルのバスケットボールゲーム中の移動特性に関する研究 | 國友亮佑 | 東海大学大学院 |
| | 14 | A-15 | | バスケットボールにおけるリバウンドボール獲得様相がチームの勝敗に及ぼす影響 | 小川瞳 | 東海大学大学院 |
| | 15 | A-16 | 12:10-12:15 | ハンドボールにおけるシュート占有率が競技成績に及ぼす影響 | 齋藤亜里穂 | 東海大学大学院 |
| | 16 | A-17 | 12:15-12:20 | バレーボールの試合における「流れ」の変化とその原因について | 浅井雄輔 | 北海道教育大学大学院 |
| | 17 | A-18 | | 近年の世界トップレベルのラグビーゲームにおけるブレイクダウンからの攻撃戦術 | 嶋崎 達也 | 筑波大学 |
| | 18 | A-21 | | 成長期スポーツ選手の栄養教育のありかた その1 | 山本愛 | 神戸女子大学 |
| | 19 | A-22 | | 成長期スポーツ選手の栄養教育のありかた その2 | 平迫美紅 | 神戸女子大学 |
| | 20 | A-23 | | 小学校体育ボール運動のサッカーの授業におけるドリブルトレーニングの効果について | 知野匡伸 | 岩手大学大学院 |
| | 21 | A-24 | | 小学生高学年におけるフラッグフットボールの「作戦立案能力」に関する研究 | 松尾博一 | 筑波大学 |
| | 22 | A-25 | 12:20-12:25 | フラッグフットボールにおける戦術の歴史的発展過程に関する一考察 | 宗野文俊 | 北海道大学大学院 |
| | 23 | A-26 | | 体育大学におけるクイックリフトの授業事例 一適切なフォームの評価に着目して一 | 横野陽介 | 日本体育大学 |
| | 24 | A-31 | | 転倒予防コーチングの研究:高齢者の水平外乱への対応特性 | 渡部 和彦 | スポーツ健康科学研究所 |
| | 25 | A-32 | | 倒立における視野制限の影響 | 佐藤佑介 | 日本大学 |
| | 26 | A-33 | 12:25-12:30 | 長なわとびの回旋技術に関する一考察 ～熟練者の動きに着目して～ | 大塚隆 | 東海大学 |
| | 27 | A-34 | 12:30-12:35 | 体幹と足の情報が球技の1対1の状況において重要である | 藤井慶輔 | 京都大学 日本学術振興会 |
| | 28 | A-35 | | サッカーのゲーム形式のトレーニングにおける即時フィードバックの効果 | 小井土正亮 | 筑波大学大学院 |
| | 29 | A-36 | | 他者観察としての模範映像観察が運動学習に与える影響について 一サッカーのサイドボレーキックを課題として一 | 棚橋啓輔 | 筑波大学 |
| | 30 | A-37 | 12:35-12:40 | 野球の初級打者を対象とした顕在的・潜在的知覚トレーニングの効果 | 田中ゆふ | 近畿大学 |
| | 31 | A-38 | | ソングリーディングにおけるボディイメージの研究 | 堀井綾香 | 大東文化大学 |
| | 32 | A-39 | | ランニングアディクションと精神的健康度の関連性 | 月野 功大 | 大東文化大学大学院 |

3月17、18日 ポスター・プレゼンテーション プログラム

| 発表日 | NO | P-NO | CP | 演題名 | 発表者 | 所属 |
|-------|----|------|-------------|---|-------|-------------|
| 3月18日 | 33 | B-1 | | コーチの資質能力の形成過程に関する一考察:日本を代表する一流コーチへの質問紙調査を手がかりとして | 浅井崇文 | 東海大学大学院 |
| | 34 | B-2 | | 日本女子バスケットボールの現状と課題 —女子日本代表前監督中川文一氏を招いての研究会をもとに— | 佐々木直基 | びわこ成蹊スポーツ大学 |
| | 35 | B-3 | | 日本代表チームにおける専任コーチの難しさについて—バスケットボール女子日本代表を例に— | 林悠太 | びわこ成蹊スポーツ大学 |
| | 36 | B-4 | 12:00-12:05 | 海外での指導経験が指導哲学に及ぼす影響-現地指導者ライセンス取得者に着目して- | 森政憲 | 早稲田大学大学院 |
| | 37 | B-5 | | 大学競技スポーツにおけるリーダーシップに関する研究 | 村上大記 | 筑波大学 |
| | 38 | B-6 | | バレーボール指導者の社会的勢力と選手の学習方略との関係 | 柳澤優樹 | 大東文化大学大学院 |
| | 39 | B-7 | 12:05-12:10 | 指導者のコミュニケーションが競泳選手の動機づけに与える影響 | 徳永貴志 | 東海大学大学院 |
| | 40 | B-8 | 12:10-12:15 | 指導書からみた野球の打撃指導における着眼点の分類-指導者間の意見の共通性に着目して- | 金堀哲也 | 筑波大学大学院 |
| | 41 | B-11 | 12:15-12:20 | 中学生野球選手における硬式球および軟式球を用いたスローイング動作の相違に関するバイオメカニクス的研究 | 島田一志 | 金沢星稜大学 |
| | 42 | B-12 | 12:20-12:25 | 野球の外野手におけるキャッチング動作の研究 | 山中祥祐己 | 立命館大学 |
| | 43 | B-13 | | 簡易バットスイング計測装置作成の試み | 高津浩彰 | 豊田工業高等専門学校 |
| | 44 | B-14 | | 打球中の生理的負担度と打球動作との関連に関する検討 | 葛西順一 | 早稲田大学 |
| | 45 | B-15 | | 卓球競技における連続打撃に伴うボールスピードおよび正確性の変化 | 勝亦陽一 | 早稲田大学 |
| | 46 | B-16 | | ジュニアテニス選手におけるボールの違いがゲームに与える影響～ITFのPLAY+STAYプログラムを用いて～ | 小澤宏幸 | 筑波大学大学院 |
| | 47 | B-18 | 12:25-12:30 | ジャベリックスローの指導方法に関する一考察 ～投射方向の観点から～ | 小松真二 | 東海大学 |
| | 48 | B-19 | | 診断力と処方力に基づくコーチング力養成プログラムの実践-鹿屋体育大学の実技実習科目での取り組みから- | 田中裕己 | 鹿屋体育大学 |
| | 49 | B-20 | 12:30-12:35 | チーム・スポーツにおける“Collective Efficacy”理論の検討 | 池田 英治 | 筑波大学大学院 |
| | 50 | B-21 | 12:35-12:40 | バスケットボールフリースローにおける質的分析を用いたコーチングの事例研究 | 垂脇匡宏 | 立命館大学 |
| | 51 | B-22 | 12:40-12:45 | ライセンスレベルの異なるハンドボールレフェリーによる試合中の行動規範に関する特徴-昇級審査採点用紙に基づいた自己評価に着目して- | 田淵舞 | 筑波大学大学院 |
| | 52 | B-25 | | オフザピッチにおけるチームマネジメントに着目した大学サッカーのチームビルディングに関する事例研究 | 樋口智洋 | 早稲田大学 |
| | 53 | B-26 | | FIFAワールドカップのゴールキーパーのプレー内容の変化 -1990年以降の6大会から2006年ドイツ大会と2010年南アフリカ大会の比較を中心に- | 伊藤耕作 | 宇部工業高等専門学校 |
| | 54 | B-27 | | 大学サッカー選手のポジション決定要因に関する研究 | 西脇寛人 | 筑波大学 |
| | 55 | B-28 | | Jリーグクラブ・ユース指導者の研究 —高等学校サッカー部指導者との比較を通して— | 古賀康彦 | 早稲田大学 |
| | 56 | B-29 | | サッカー競技における幼児・児童期の「ボールテクニック」習得に関する一考察 —日本・メキシコの実践例及び指導書に着目して— | 中村泰介 | 聖トマス大学 |
| | 57 | B-30 | | サッカーのゴールキーパーにおける努力度別バントキックに関する研究 | 田子孝仁 | 徳島文理大学 |
| | 58 | B-31 | | 柔道衣検査の規定変更に関する一考察 | 瀬川 洋 | 広島国際大学 |
| | 59 | B-32 | | 柔道競技者のためのTABATA PROTOCOL開発とそのトレーニング効果 | 石井孝法 | 了徳寺学園 |
| | 60 | B-33 | | 自体重負荷におけるレジスタンス運動の運動強度(METs) | 下嶽進一郎 | 中京大学 |
| | 61 | B-34 | | 日本体育大学女子バレーボールチームの年間体カトレーニングプログラムの検証 | 山内亮 | 日本体育大学 |
| | 62 | B-35 | | 高校生バスケットボール選手に下肢血流制限バンドを用いたトレーニングが成長期の脚筋力におよぼす影響について | 竹内敦 | 日本体育大学 |
| | 63 | B-36 | | 主観的努力度の違いがストローク特性に与える影響:4泳法の比較 | 佐藤 慎哉 | 新潟市教育相談センター |
| | 64 | B-37 | | トライアスロンにおけるSwimパートのレース展開 —トライアスロンディスタンスでのGPS軌跡分析から— | 森谷直樹 | 文化学園大学 |
| | 65 | B-38 | | 10人制オーストラリアンフットボール国内リーグの日本人選手の試合中の運動強度 | 関口 遼 | 日本体育大学大学院 |

企業一覧

【賛助会員】

株式会社 大修館書店
(株)サス・スポーツプロダクト

ILS 株式会社

株式会社 ディケイエイチ
日勝スポーツ工業株式会社

株式会社 文成印刷

NPO 法人 日本 G ボール協会

あどあど

【協賛企業】

株式会社 ダートフィッシュ・ジャパン

株式会社 ベルテック・ジャパン